


東海大学

学校法人 東海大学

大学内の情報セキュリティ確保に 「FENCE-Pro」「FENCE-G」が貢献

個人情報保護法の施行を契機に、情報セキュリティへの関心が急速に高まっている。東海大学においても、2005年より新たな学内セキュリティシステムを稼働させた。同大学では情報活用を推進すべく、基幹業務システムの再構築を進めている。しかし、次世代に向けた新たな環境を構築していく上では、不正アクセスや情報漏洩などを防止できる仕組みが不可欠だった。そこで同大学では、富士通ビー・エス・シーの「FENCE-Pro」と「FENCE-G」を採用。ファイル暗号化機能や外部デバイスへの持ち出し抑止機能を利用することで、セキュリティと利便性の両立に成功している。



梶田 晶子 氏
東海大学
総合情報センター
情報システム開発課
課長



會澤 信 氏
東海大学
総合情報センター
情報システム開発課
課長補佐

Felica カードを利用した セキュリティシステムを構築

一般企業や公共団体、教育機関の別を問わず、情報セキュリティの確保は最優先課題となっている。こうした状況に対応すべく、東海大学でも新たな学内セキュリティシステムの構築に着手した。そのきっかけとなったのが、基幹システムの再構築プロジェクトである。東海大学 総合情報センター情報システム開発課課長 梶田晶子氏は「これまでのシステムは、職員の業務システムが中心で、教員や学生の直接利用に難しい面がありました。そこでオープンシステムに移行し、より柔軟なデータの登録や活用が可能な環境を目指したいと考えたのです」と語る。

既に学生の「Web 履修システム」や「財務ワークフローシステム」で効果をあげている“発生源入力による情報正確性の

確保”や“紙をなくすことでの業務改革”を拡大し、更に、ユーザー自身が必要なデータを活用できるようにしたいと考えたわけである。

もっともこうした環境を実現する上では、セキュアなユーザー認証基盤が不可欠になる。そこで同大学では、「Felica カード」をサポートする富士通の認証ソリューション「SMARTACCESS/Feel」を採用。東海大学 総合情報センター情報システム開発課課長補佐 會澤信氏は、その理由を「Felica カードなら、共通利用フォーマットがありユーザー認証以外のサービスにも適用できます。将来的な発展性も確保できる点を評価して採用を決めました」と説明する。

ファイルの暗号化と外部持ち出し制御を「FENCE-Pro」と「FENCE-G」で実現

Felica カードの導入を決定した同大学だが、情報セキュリティを高めていく上ではもう一つ解決すべき課題があった。それは機密データの閲覧や持ち出しを、いかにして防止するかという点である。特に2005年4月の個人情報保護法施行以来、情報管理の徹底が今まで以上に強く求められるようになってきている。ログイン時のユーザー認証だけでなく、システムに蓄積されたデータそのものをどう守るかも課題となったのだ。

そこで導入されたのが、富士通ビー・エス・シーの「FENCE-Pro」と「FENCE-G」である。

「FENCE-Pro を利用すれば、業務で使用するファイルを自動的に暗号化することができます。このためアクセス権限のないユーザーがファイルを開こうとしても、中身を見ることはできません」と梶田氏は語る。

また「FENCE-G」は、フロッピーディスクやUSBメモリ、CD-Rなどの外部媒体によるファイル持ち出し／持ち込みを制御する機能を装備しており、重要性の高いデータを、勝手に外部に持ち出せないようにすることができる。さらに外部媒体への書き出し操作などをログに記録できるため、心理的な抑止効果を高めることも可能だ。會澤氏は「FENCE-G を導入したことで、知らない間にデータを持ち出される心配がなくなりました」と語る。

安全・安心と使いやすさを両立しユーザーの情報活用を支援

FENCE シリーズと Felica カードによる学内セキュリティシステムは、まず事務系ネットワークを利用する教職員約1000名を対象に使用を開始。梶田氏はシステムの導入メリットとして、使い勝手を損なうことなくセキュアな環境を実現できた点を挙げる。「毎日システムを利用するユーザーにとっては、使い勝手も重要なポイントです。その点 FENCE-Pro による暗号化・復号化は、特別な意識を持つ必要がまったくないので、スムーズに運用を定着させることができました」(梶田氏)。

また情報を安心して活用できるようになった点も大きいという。會澤氏は「以前は外部で学校説明会を行う際などデータの持ち出しには不安があり資料に紙を使うしかありませんでした。しかし FENCE-Pro と FENCE-G の連携機能を利用することで、暗号化データをノート PC に入れて持ち出すことが可能になりました。万一ノート PC の紛失・盗難が起きたとしても、正規ユーザーでなければデータを開くことはできません。情報漏洩の心配をすることなく、外部でもデータを活用できるというわけです」と説明する。今後は FENCE-G の印刷ログ取得機能も活用し、印刷状況の把握や分析なども行っていきたいとのことだ。

東海大学ではシステムの適用領域を、今後もさらに拡げていく予定である。「情報をもっと活用したいというニーズは、大学の経営層から教職員、学生に至るまで全員に共通しています。しっかりとセキュリティを確保した上で、こうした要望に応じていきたい」と梶田氏は意気込みを語る。FENCE シリーズが活躍する場面も、ますます増えていきそうである。

ユーザー概要

学校法人 東海大学



住 所：神奈川県平塚市北金目 1117(湘南校舎)
キャンパス：湘南、代々木、清水、沼津、伊勢原
創 立：1942 年
学 生 数：院生数 1,363 学生数 27,529(2005年5月現在)
教職員数：専任教員数 1,569 専任職員数 699(2005年5月現在)
学部学科等：十三学部七十一学科・専攻・課程、
大学院(十五研究科)、専門職大学院

建学の精神：「人道主義、人格主義のもとに思想を培う」東海大学は建学以来、思想を培う教育を実践しています。「若き日に汝の思想を培え 若き日に汝の体躯を養え 若き日に汝の智能を磨け 若き日に汝の希望を星につなげ」という教育方針のもと、豊かな人間教育の場として、明日の文明社会を担える人材教育を目指しています。

U R L : <http://www.u-tokai.ac.jp>

株式会社 富士通ビー・エス・シー

FUJITSU BROAD SOLUTION & CONSULTING Inc.

お問い合わせ先

パッケージ&サービス本部 FENCE事業部
〒135-8300 東京都港区台場 2-3-1 トレードピアお台場
Tel : 03-3474-9525 Fax : 03-3570-4070
E-mail : spinfo@bsc.fujitsu.com

※記載されている仕様、サービス内容などは予告無しに変更することがありますので、あらかじめご了承ください。
※記載された会社名、商品名は各社の商標または登録商標です。